

令和4年度京都市市民憲章 推進テーマ及び実践目標

1 令和4年度の推進テーマ

「あらゆる力を合わせて 魅力あふれる京都を未来へ」

—趣旨—

昭和31年5月、京都市市民憲章は、私たちのまち・京都を美しく豊かにするために市民が守るべき規範として、市民の手により制定されました。自分の行動を規律し、京都の魅力あるまちづくりに貢献しようという市民憲章の趣旨は、地域や学校、職場などあらゆるところで生かされ、市民一人一人の行動や活動のよりどころとして、重要な役割を果たしています。

令和2年から続く新型コロナウイルス感染症は、未だ衰えを見せず、今もなお世界的な感染拡大を繰り返しています。コロナ禍は、私たちの生命と心身の健康だけでなく、生活スタイルや経済活動、価値観等に大きな影響を与え、変化をもたらしました。

コロナ禍による影響は、厳しい京都市の財政状況にも拍車をかけ、これまで築き上げてきた、誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくりの根幹を揺るがしかねない状況となりました。京都市では、昨年8月、直面するコロナ禍と財政危機という2つの危機を乗り越え、持続可能なまちづくりを確立していくため、「京都市行財政改革計画」を策定し、今年度から、本格的な改革が始まっています。

振り返ると、千年を超える京都の歴史は疫病、自然災害など都市の存亡に関わるあまたの危機に直面し、それらを乗り越え、より魅力的なまちへと発展してきた歴史です。その中で、まちを支え、未来へ導いたのは、市民の力、地域の力にほかなりません。

今日のコロナ禍や、人口減少、少子高齢化、地球温暖化の進展やデジタル化の加速、更には、世界的な政治の動乱、国家間の対立等により、今後、社会の在り方が大きく変化していくことが見込まれ、今まさに時代の転換点を迎えています。

しかし、大きく変化する中においても、歴史と伝統に裏付けられた豊かな精神文化や進取の気風にあふれた自治の伝統、四季折々の自然との共生、環境や多様性、生活の中で培われてきたくらしの文化など、京都がこれまで大切にしてきたものを決して絶やしてはいけません。今こそ、京都の最大の強みである、市民力、地域力をはじめ、京都がこれまで築き上げてきたまちの魅力など、あらゆる力を結集し、明るい未来を切り拓きましょう。

コロナ禍や人口減少、少子高齢化、地球温暖化等の本市を取り巻く様々な環境の変化等を乗り越え、魅力あふれる京都を未来へ引き継いでいくことを見据えたテーマ及び趣旨を設定しました。

2 実践目標・行動例

(1) 自然やまちの美観を守り、緑豊かな美しいまちにしましょう。

【行動例】

- 日常的な門掃きを心掛ける
- まちの美観を損ねる違反ビラや看板等を出さない・出させない
- 身近な公園や街路樹などの花や緑を育てる
- 自転車の放置やごみの不法投棄をしない・させない
- 路上喫煙や吸殻等のポイ捨てをしない・させない
- 収集場所にネットを設置するなどごみの散乱防止に努める

豊かな自然と歴史的なまちなみが調和した美しいまち京都。このまちの美観を守り、そこに暮らし続けることは、わたしたちの願いであり、国内外から多くの方を迎える京都市民の使命でもあります。こうした活動を継続し、「世界一美しいまち」を実現するためには、より多くの市民及び事業者の皆様の協力が必要です。

京都のまちを美しくし、訪れる人々を気持ちよくお迎えするため、地域が主体となって取り組んでいる清掃・美化活動や身近な街路樹の世話など、「世界一美しいまち・京都」を築くための取組をみんなで力を合わせて進めていきましょう。

京都市の主な取組

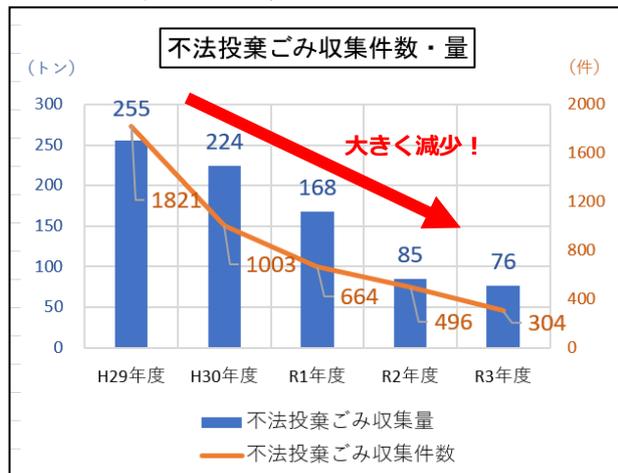
<まちの美観>

京都市では、「世界一美しいまち・京都」の実現を目指し、市民や事業者の皆様と協働で、門掃き、ごみのポイ捨て禁止等の呼び掛けや不法投棄等のまちの美観を損うものの一掃に積極的に取り組んでいます。

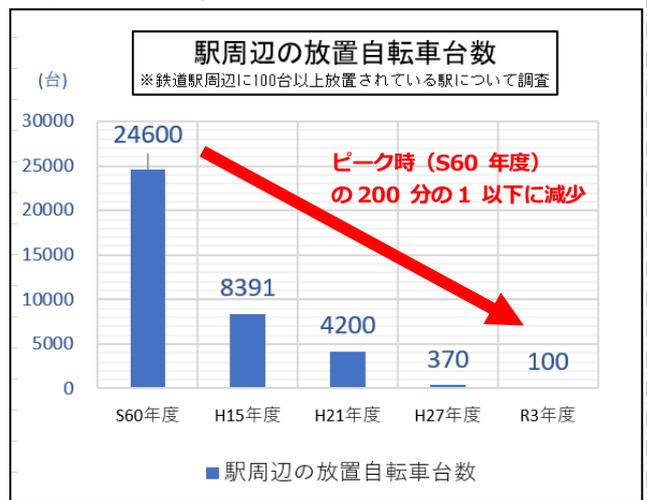
20年以上に亘って続けられている世界の京都・まちの美化市民総行動「京都・まち美化大作戦」には、例年、2,000人を超える方々が参加されています。令和3年度は、新型コロナの状況を踏まえ、中止となりましたが、11月の「京都市美しいまちづくり推進月間」に合わせて、多くの企業・団体の皆様が美化活動に取り組まれるなど、「世界一美しいまちにしよう」という行動の輪は着実に広がっています。

【関連データ】

●不法投棄ごみ収集件数・量



●駅周辺の放置自転車台数



<緑化の推進>

東本願寺前の緑地と京都市道を一体的に活用する「市民緑地」を令和4年度末の完成に向けて整備しています。

京都市初の待望の市民緑地であり、「賑わい・憩いの空間」、「歴史・文化の発信の空間」、「おもてなしの空間」として、皆様に愛される新しい名所となるよう、工事等を進めています。



東本願寺前市民緑地整備イメージ

平成30年4月には、本市道路で初めて、道路のアスファルトや屋根などに降った雨水を一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間「雨庭」を四条堀川交差点（南東角）に設置しました。

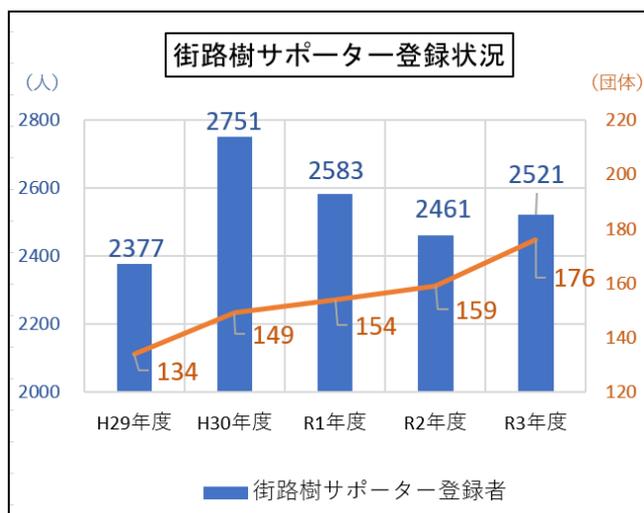
令和3年度に、新たに2箇所が完成し、合計8箇所の雨庭が整備されています。また、整備後の雨庭の管理には、「京都市街路樹サポーター」の皆様がボランティアとして取り組んでいただくなど、市民、事業者の皆様との協働による緑化推進事業を進めています。



雨庭（北野白梅町）

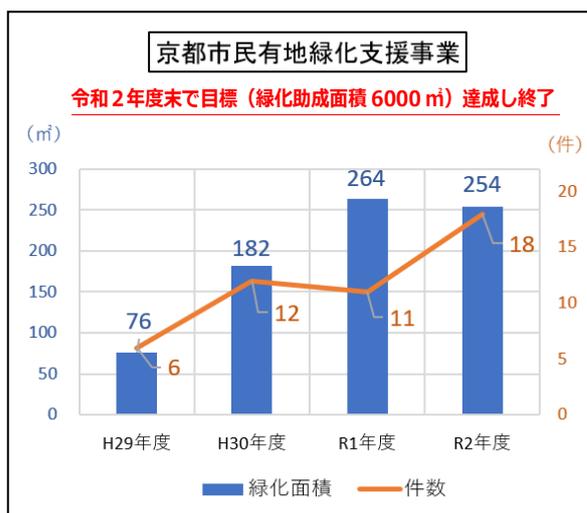
【関連データ】

●京都市街路樹サポーターの登録状況



※「R3年度」は、令和3年12月末時点の数値です。

●京都市民有地緑化支援事業



【昨年度からの主な変更点】

- ・市民緑地、雨庭の整備、京都市街路樹サポーターについて、本文に追加しました。

(2) 地球の未来を守るため、環境にやさしい身近な取組から実践しましょう。

【行動例】

- 「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」の趣旨を考え、自ら環境にやさしい取組を実践する
- ごみの分別の徹底など、ごみ出しのルールを守る
- 感染症対策に配慮したごみ出しを実践する
- 手付かず食品や食べ残しなどの「食品ロス」をなくす
すぐに食べる場合は、賞味期限や消費期限が近いものを購入する
- 宴会の開始後30分と終了前10分は、料理を楽しみ、食べ残しをなくす
「30・10運動」を広げる
- 雑がみをはじめとしたリサイクル可能な紙ごみの分別・リサイクルを実践する
- 不用になった小型家電や使用済天ぷら油等の回収・リサイクルに協力する
- マイバッグ、マイボトル、リユース食器などのエコグッズを使用し、ペットボトルをはじめとする使い捨てプラスチックの削減に努める
- 使いキリ、食べキリ、水キリの「生ごみの3キリ運動」を広げる
- 急発進・急加速をしないなどエコドライブを実践する
- 太陽光発電システムなど、創エネ・省エネ設備を導入する
- クルマの使用を控え、公共交通機関(市バス・地下鉄など)を利用する
- 冷暖房は、適正な室温管理(※)の範囲で活用するなど、節電を心掛ける

※適正な室温 … 環境省の「クールビズ」では、「適正な室温」の目安を 28℃とされています。これは、必ず「28℃」ということではなく、冷房時の外気温や湿度、「西日が入る」などの立地や空調施設の種類などの建物の状況、室内にいる方の体調等を考慮しながら、無理のない範囲で冷やし過ぎない室温管理をお願いする上で、目安とされているものです。例えば、冷房の設定温度を 28℃にしても、室内が必ずしも 28℃になるとは限りません。そういう場合は、設定温度を下げることも考えられます。なお、「クールビズ」で呼び掛けられている室温の目安「28℃」は冷房の設定温度のことではありません。

(参照元)環境省 HP「Cool Biz」について <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/coolbiz/>

令和元年5月、京都市は全国に先駆けて「2050年二酸化炭素排出量正味ゼロ（ゼロカーボン）」を目指すことを宣言。また、当時の環境大臣等と共同で、世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えるべく、あらゆる方策を迫り具体的な行動を進めていくことを世界に訴える「1.5℃を目指す京都アピール」を発表しました。

こうしたことを契機に、私たちは、SDGsの実現を見据え、京都議定書誕生の地としての誇りと千年に亘り自然と共生してきた生活の文化を大切に、次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが考え、行動する必要があります。

「2050年CO2排出量正味ゼロ」の達成には、京都が育んできた文化や伝統に多くの示唆があります。例えば、京の食文化。食品ロスによって排出される温室効果ガスの量（CO2換算）は年間36億トンと言われており、世界の温室効果ガス排出量の約8%を占めます。そこで、一汁三菜、地産地消、旬のものを食べる、食材を無駄にしない、そうした自然との共生の中で育まれた京の食文化には、自ずとCO2の削減につながる知恵が含まれています。

これからも、「DO YOU KYOTO?（環境にいいことしていますか?）」を合言葉に、ごみの減量やエネルギーの節約を心掛けるなど、毎日の暮らしの中で、身近な取組を実践していきましょう。持続可能なまちをつくり、次世代に引き継ぐためには、私たち一人ひとりの行動が不可欠です。

京都市の主な取組

<ごみの削減>

京都市では、生ごみの約4割を占める手付かず食品や食べ残しを減らす「食品ロス削減」の取組をはじめ、「2R」（ごみになるものを作らない・買わない「リデュース」や、繰り返し使う「リユース」）の促進に取り組んでいます。

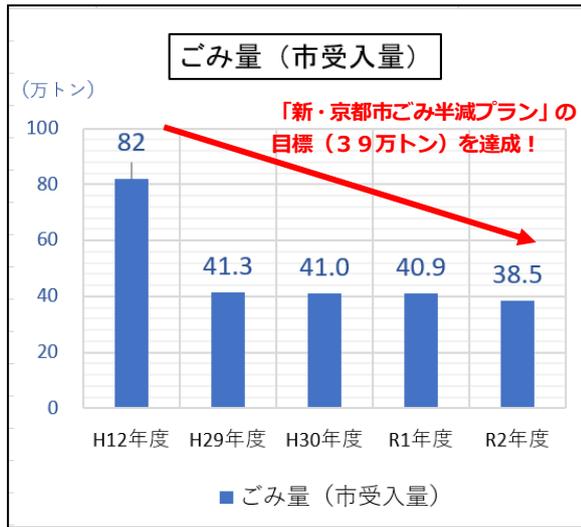
食品ロスの削減については、各事業者で定めている販売期限を、賞味期限又は消費期限の範囲内で従来よりも延長して食品を販売する「販売期限の延長」の取組の推進や、株式会社 Mizkan Holdings と連携のもと、食材を無駄なく食べるレシピを紹介するガイドブックを発行するなど、市民・事業者の皆様と連携しながら様々な取組を進めています。



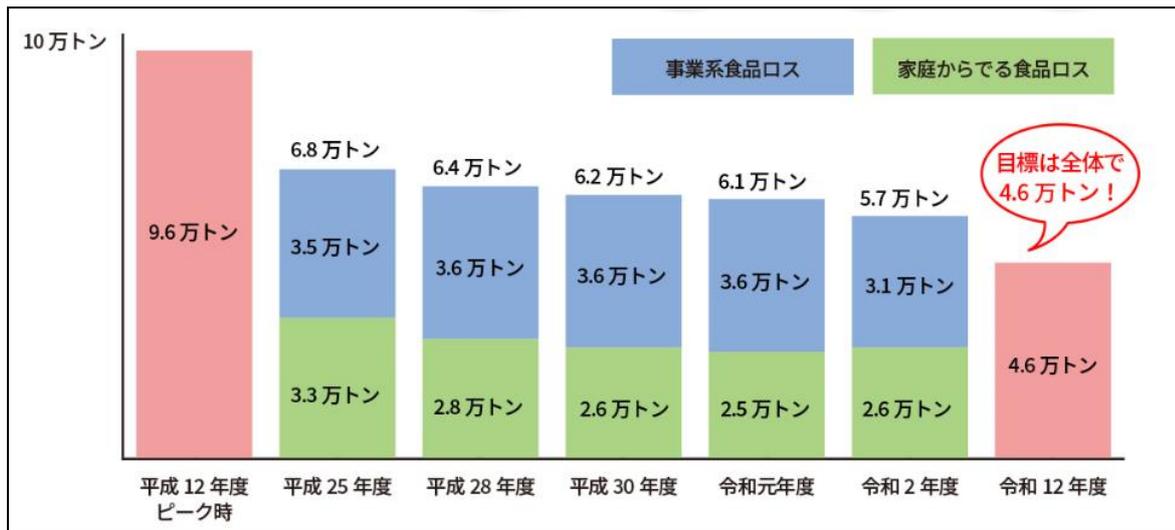
もったい鍋がいでぶっく

【関連データ】

●ごみ量（市受入量）



●京都市の食品ロス発生量



<地球温暖化対策等>

京都市では、日本で初めて温室効果ガス削減目標を明記した「京都市地球温暖化対策条例」を策定し、京都議定書が採択された都市として先導的な役割を果たすため、本市、市民、事業者、環境保全活動団体等がそれぞれの立場において、地球温暖化防止に向けた取組を推進しています。

毎月16日の「DO YOU KYOTO?デー」には、マイカーから公共交通機関への転換を呼び掛ける「ノーマイカーデー」や屋外照明などの消灯を呼び掛ける「ライトダウン」などの取組を、市民や事業者の皆様と一緒に実施しています。

また、平成17年度からは、子ども達が地球温暖化問題について自ら考え体験等を行う環境教育プログラム「こどもエコライフチャレンジ」を、全市立小学校において実施しています。保護者も児童と一緒に環境問題について考える機会となっています。

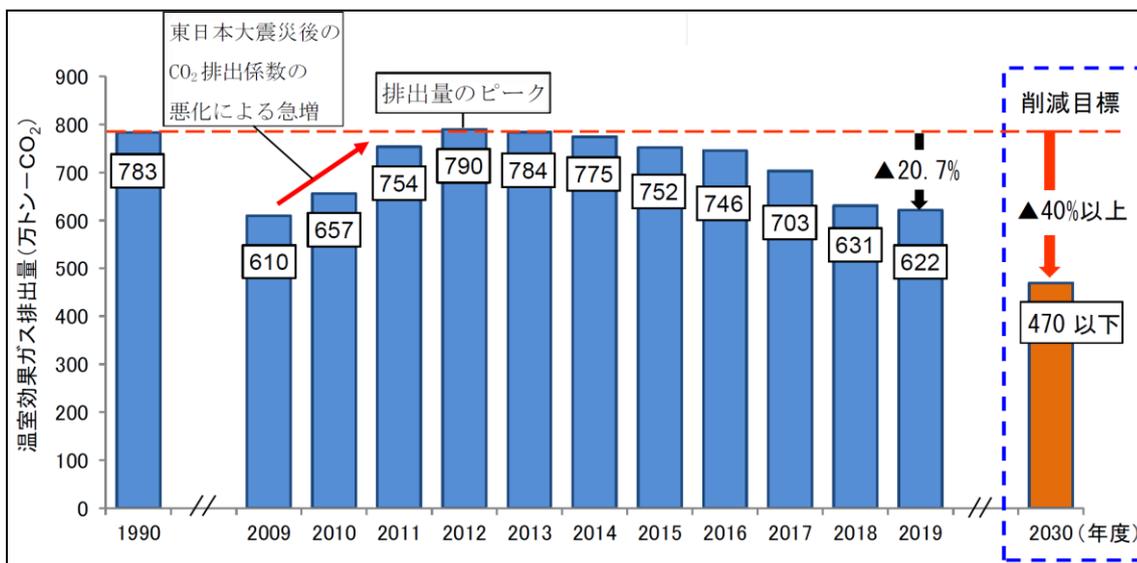


こどもエコライフチャレンジの様子

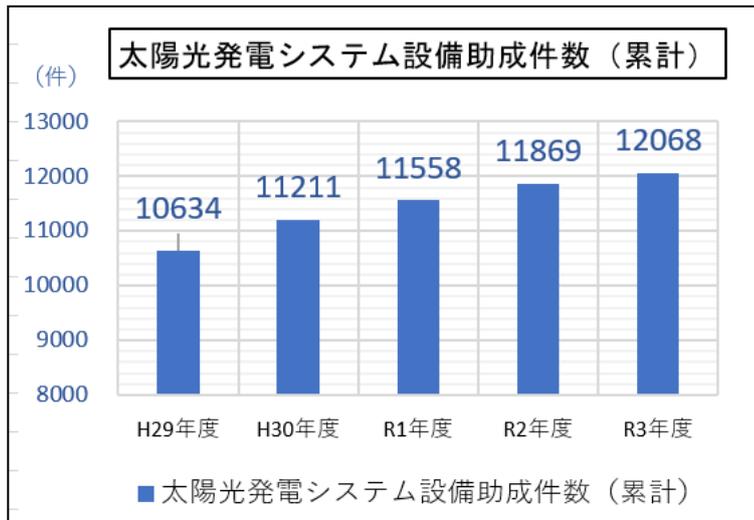
この他、環境に配慮した交通手段を優先する「歩いて楽しいまち京都」の実現に向けた取組を推進しており、移動のために自動車を使う割合が平成12年から約2割減少するなど、持続可能な脱「クルマ中心」社会のモデル都市形成を目指し着実に歩みを進めています。

【関連データ】

●温室効果ガス排出量



●太陽光発電システム設置助成件数



※「R3年度」は、令和3年12月末時点の数値です。

【昨年度からの主な変更点】

- ・民間企業と連携した食品ロス削減の取組についての記述を追加しました。
- ・「子どもエコライフチャレンジ」についての記述を追加しました。

(3) 地域のつながりを大切にし、誰もがいきいきと安心安全に暮らせるまちをきずきましょう。

【行動例】

○感染症の拡大防止

- ・3密(換気の悪い密閉空間, 人が密集している場所, 密接しての会話など)が同時に重なる場所を避ける(1密にも留意)
- ・自身の健康はもちろん, 周囲の健康にも配慮した, 咳エチケット, マスクの着用, 手洗いうがい, 手指の消毒, 黙食を実践する
- ・外出や会食の自粛期間においては, 「我慢」ではなく, 大切な人の命や健康を守るための「社会貢献」として行動を考える

○笑顔であいさつをする, 町内会に参加するなど地域とのつながりを
常日頃から大切にする

○子育て世代, お年寄りや障害のある方, 生きづらさを抱えた方などを
地域みんなで支える

○健康寿命を伸ばすため自発的に健康づくりに取り組む

○自転車は交通ルールやマナーを守って運転する

○歩きながら携帯電話を使用しないなど携帯電話のマナーを守る

○常日頃から災害が起こった時のことを想定し, 備えを徹底する

○災害時には, 互いに協力し合い, 声を掛け合う

○交通ルールの啓発活動, 登下校時の児童への声掛けなど子どもを見守る

私たちの暮らしを一変させる災害や疫病などから命や財産を守ること、また、犯罪のない社会を実現することは、極めて重要な課題です。少子高齢化の進行や価値観の多様化、人口減少、そしてコロナ禍。地域のつながりが希薄になったと言われる今、地域の人々が互いに支え合うことの重要性が改めて注目されています。これまで培ってきた京都の強みである「地域力」・「市民力」を結集し、誰もがいきいきと安心安全に暮らせるまちを築いていきましょう。

京都市の主な取組

<地域のつながり>

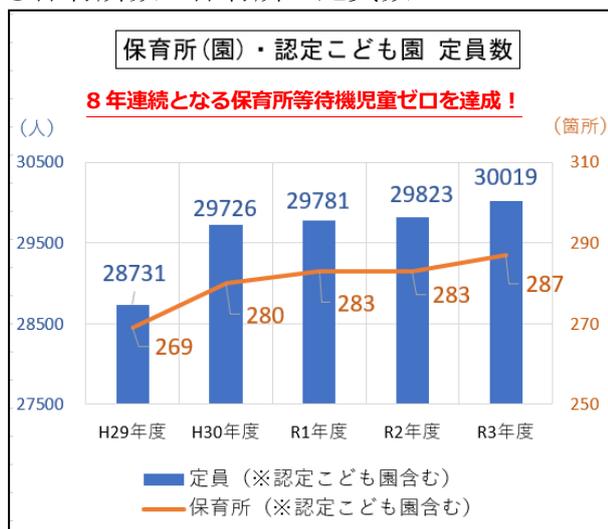
京都には、子どもや子育て家庭を地域で見守る、本市ならではの「はぐくみ文化」がしっかりと根づいています。京都市では、地域自治を担う住民組織、事業者等との連携のもと、地域コミュニティの活性化の推進とともに、子どもの居場所づくりや保育園の新設等、子育ての多様なニーズに応えた支援策も拡充しています。

また、令和3年3月には、「京都市再犯防止推進計画」が策定されました。再犯防止の推進は、新たな犯罪被害者を生み出さない取組であるとともに、犯罪等をした人が罪を償い社会の一員として再出発しようとするのを社会全体が認め、支えることで、社会復帰を促進する取組でもあり、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会の実現に資するものです。

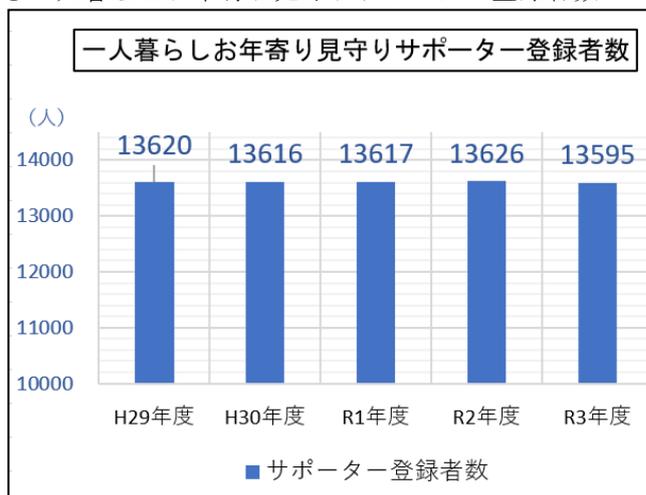
今後、更に進むと予想される少子高齢化、孤立化、デジタル化等の社会状況の変化にも的確に対応しながら、これまで市民が作り上げてきた京都の文化ともいうべき、様々な背景をもった人たちが、ともに暮らしやすい社会づくりをより一層進めています。

【関連データ】

● 保育所数・保育所の定員数



● 一人暮らしお年寄り見守りサポーター登録者数



<安心安全>

京都市では、すべての人が安心して安全に暮らすことができるよりよい地域共生社会を目指し、一人一人の防犯・交通事故防止の意識を高め、犯罪や交通事故の発生・未然防止、被害に遭われた方への支援などに取り組んでいます。

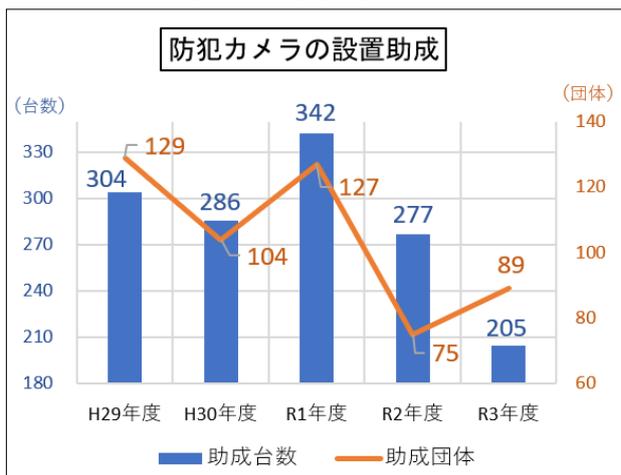
具体的な取組として、市民の皆様との協働で安心安全な暮らしを確保するため、学区ごとの地域の総合的なネットワークである「学区の安心安全ネットワーク」への支援や、防犯カメラを設置する地域団体への補助を行っています。

また、近年多発する集中豪雨などに備えて、河川整備などの災害対策の充実・強化を図るとともに、令和3年4月からは、市民が自ら、日頃の備えや災害が発生したときの行動を考えておくための、我が家の防災行動計画「マイ・タイムライン」の作成ツールを提供しています。

The image shows a sample of the 'My Time Line' disaster preparedness plan form. It is titled '我が家の防災行動計画 作る マイ・タイムライン' and includes a section for '水害・土砂災害用 マイ・タイムライン'. The form is divided into several columns: 'ハザードマップチェック', '避難行動のチェック', '避難に必要なものは?', and 'ペットは?'. It contains various checkboxes and questions related to disaster preparedness, such as '自宅の危険性は?', '避難する場所?', and '避難に必要なものは?'. There are also instructions on how to use the form and where to find more information.

【関連データ】

●防犯カメラの設置助成件数



※「R3年度」は、令和4年3月末時点の数値です。

＜新型コロナウイルス感染症＞

新型コロナウイルス感染症が確認されてから2年。感染拡大が度々繰り返され、外出自粛、飲食店の時短営業など、長期間にわたって市民生活の各所に影響が及んでいます。その中で、一人一人が、うつらない、うつさないための慎重な行動を心掛けるなど、自らと大切な人の命と健康を守る取組を、地域ぐるみで進められています。

また、医療機関や福祉分野で働く方のほか、ごみ収集、生活必需品を扱う事業者など、日々の生活を維持するために不可欠な仕事に従事する、いわゆる「エッセンシャルワーカー」の方々は、新型コロナウイルス感染へのリスクを抱えながらも、最前線で奮闘されています。

私たち市民が「ありがとう」「おかげさま」「お互いさま」の真心をもち、患者への気遣い、コロナ禍で働く方々への敬意や感謝の気持ちを広げたいと考えます。

【昨年度からの主な変更点】

- ・一人ひとりの防災意識を高めるための取組「マイ・タイムライン」についての記述を追加しました。

(4) 世界に誇る京都の文化や伝統を大切に守り伝えましょう。

【行動例】

- 多様な文化を受け入れ、お互いの理解・尊重に努める
- 和装や食をはじめ、様々な京都の文化に親しむ
- 伝統文化・伝統芸能等を鑑賞するなど文化に触れることで理解を深める
- 花を活ける、お茶を点てるなど、暮らしの中で文化を楽しむ
- 文化財の保存活動に積極的に協力する
- 日常生活の中に伝統産業製品を取り入れる
- 大切にしてきた衣食住などの知識や経験を次の世代に伝える
- 京都のまちづくりの歴史や町衆の文化を学ぶ
- 京町家の保全及び継承を推進する

約40年前、京都市の都市理念として、文化による世界平和の実現を希求した「世界文化自由都市宣言」を掲げました。「広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市―」国や地域を問わず、様々な人々と交流する中で、私達自身のもつ文化に改めて気づきます。今一度、宣言の今日的意義や京都が果たす役割について、一人ひとりが考え、行動することは平和にもつながります。

様々な人々が集い、文化を生み出してきた京都に、機能強化した「新・文化庁」が全面的に移転します。文化による地方創生、日本文化の一層の発展に向けて、京都に課された役割と責任は非常に大きいものがあります。京都に息づく様々な文化を大切に、後世にしっかりと継承していくことは、私たち京都市民が果たすべき大切な使命といえるでしょう。

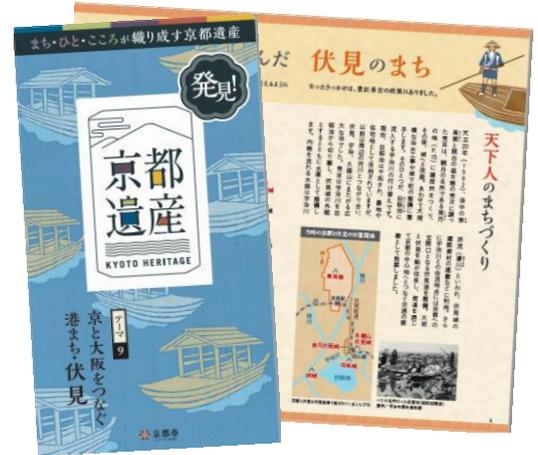
京都市の主な取組

<文化財保護>

京都市は、世界遺産「古都京都の文化財」を構成する14の社寺城をはじめ、国宝の19.1%、重要文化財の14.2%を擁する世界でも有数の歴史都市です。洗練された王朝文化だけでなく、京都で暮らす人々が知恵や技を磨き、育んできた生活文化は京都の大きな魅力となっています。

また、京都市では「“京都をつなぐ無形文化遺産”制度」を創設し、「京の食文化」、「京・花街の文化」、「京の地蔵盆」、「京のきもの文化」、「京の菓子文化」、「京の年中行事」を選定しています。

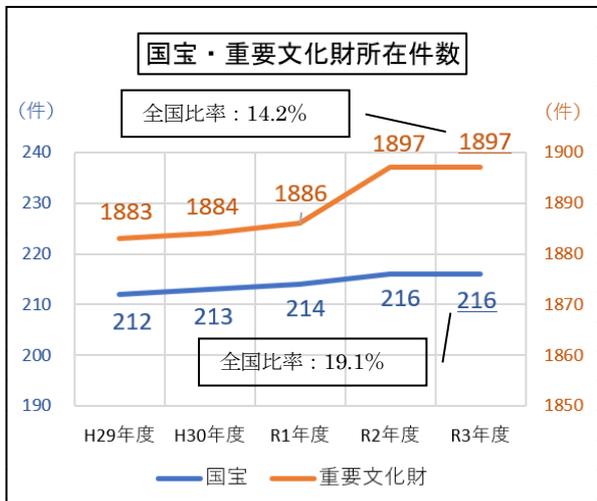
さらには、京都の文化遺産をテーマごとに、地域性・歴史性・物語性を持った集合体としてまとめ、認定する「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産制度」の創設など、京都に伝わる様々な文化を大切に守り、未来へ引き継いでいく取組も進めています。



まち・ひと・こころが織り成す京都遺産パンフレット

【関連データ】

● 国宝・重要文化財所在件数



※「R3年度」は、令和4年1月末時点の数値です。

<文化芸術>

新型コロナウイルス感染症の拡大は、文化芸術の分野にも大きな影を落としています。

この間、多くの文化事業が見直しを迫られる中、改めて文化芸術の重要性が再認識されました。例えば、花を活ける、音楽を聴く、舞台を観るといった文化芸術活動はもちろん、季節に合ったお菓子とともにお茶を楽しむ、スポーツに取り組むなど、身近な活動によっても心豊かな毎日を過ごすことができます。

京都市では、令和3年10月に、コロナ禍での文化芸術活動を、個人・企業の寄付金など社会全体で支え、持続的な文化芸術の発展を目指す新たな基金「Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度～」を創設しました。趣旨に賛同いただいた皆様からの御寄付が、京都市内で実施される幅広い分野の文化芸術活動の支援につながっています。

また、明治13年に日本で最初の公立の芸術大学として創設され、140年以上にわたり、文化芸術の発展に貢献してきた京都市立芸術大学の崇仁地域への移転整備も進んでいます。これは、単に大学が移転するという話ではなく、芸術を学ぶ学生、地域、この地を訪れる人々が交流しながら、新たな文化を創造する場となり、京都市が掲げる文化を基軸としたまちづくりの象徴となります。



京都市立芸術大学
外観イメージ（塩小路高倉より）

【昨年度からの主な変更点】

- ・「新・文化庁」の移転を踏まえた京都の果たす役割について、本文に追記しました。
- ・「Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度～」についての記述を追加しました。

(5) 旅行者との心の触れ合いを大切にし、京都ならではの「おもてなし」を実践しましょう。(※)

※京都へ安心してお越しいただける状況になった際に、観光客をお迎えする場合の実践目標です。

【行動例】

○観光案内や道案内を積極的に行う

○異文化に触れ、様々な国の文化への理解を深める

○京都の文化・習慣を国内外から訪れる人に伝え、市民生活と調和した行動を促す

＜観光客に促す行動例＞

・出発日に検温するだけでなく、出発の2週間前から検温と行動管理を実施し、訪問先も安心・安全になるよう努めてもらう

・マイボトルを持参することで、環境に配慮した観光を行ってもらう

・人が多い日中ではなく、人が少ない早朝に社寺拝観を行う等、混雑を避けることで、静寂の中、じっくりと京都の魅力に触れてもらう

・大きな荷物は、宿泊施設まで荷物を運ぶサービスを利用し、周りに迷惑を掛けず、スマートに散策してもらう

・文化財の奥深い魅力や大切さはもちろん、歴史や文化財保護など、目では見えない情報も学び、今日まで在る理由を後世につないでもらう

・持ち帰るお土産は、歴史や職人、文化を知った上で購入し、秘められた文化や想いについての説明を添えて渡してもらう

京都には1200年以上の歴史と昔から継承されてきた暮らしの文化、生き方の哲学が今も息づいています。それが世界的に評価され、京都市を訪れる国内外の観光客数は、7年連続(平成25年～令和元年)で5,000万人を超え、うち外国人観光客数は886万人(令和元年)となっております。そして、日本人・外国人ともに90%以上が京都観光に満足しており、多くの観光客が「京都のおもてなし」に感動されています。これは、市民の皆様が日常的に温かく旅行者をお迎えしている証です。

令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、往来の自粛が呼びかけられる状況も一度ならず生まれていますが、安心してお越しいただける状況になったときには、改めて温かくお迎えしたいものです。

旅行者の「京都の印象」を決めるのは、旅先で出会う「京都の人」です。思いやりのある声掛けや心配りは訪れる方々とのふれあいをもたらし、わたしたち自身の心も温かくしてくれます。コロナ禍という危機的な状況を共に乗り越え、市民の暮らしとの調和の中で、訪れる方が京都で良い体験をし、京都に理解と愛着を持っていただけるよう、「おもてなしの心」で旅行者を迎えましょう。

京都市の主な取組

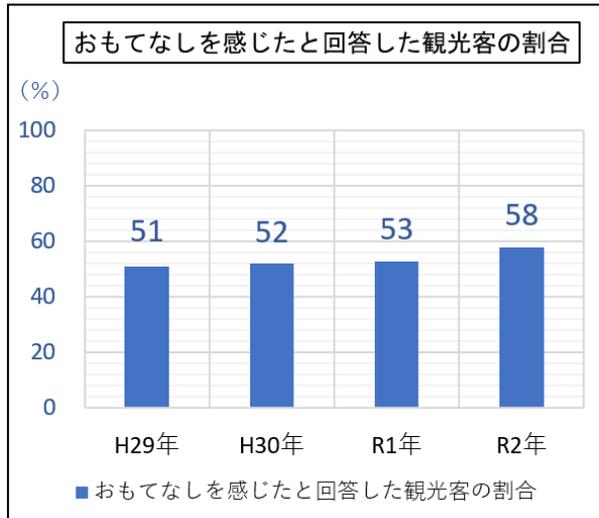
<市民生活と調和した持続可能な観光の推進>

コロナ禍以前、外国人観光客の急増等により、一部の観光地の混雑や、文化・習慣の違いによるマナー違反等の観光課題が発生しました。今後、京都観光の回復に取り組む中で、かつて観光課題が発生していたコロナ禍以前の観光に戻すのではなく、市民生活と調和した持続可能な観光を進めていくため、令和2年11月、「京都観光行動基準(京都観光モラル)」を策定しました。本行動基準には、観光事業者・従事者、観光客、市民の皆様が、お互いに尊重しあい、思いを一つにし、かけがえのない京都を未来へと引き継いでいくため、京都観光に関わる全ての皆様に大切にしていきたいことが掲げられており、京都市市民憲章の実践についても触れられています。

また、京都が本格的な秋の観光シーズンを迎えた令和3年11月、京都の観光関連業界団体の皆様とともに「新しい京都観光に向けた共同宣言」を発表しました。安心安全の確保を前提に市民生活と観光が調和する、新たな京都観光に皆で一丸となって取り組んでいくことを誓い、全国に向けて発信しました。

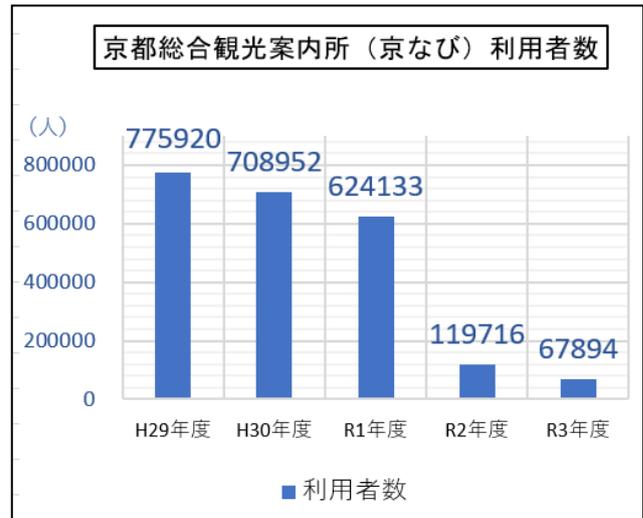
【関連データ】

● 「おもてなしを感じた」と回答した観光客の割合



※「R2年度」は、秋の日本人観光客のみ調査
(京都観光総合調査より)

● 京都総合観光案内所（京なび）利用者数



※「R3年度」は、令和3年12月末時点の数値です。

【昨年度からの主な変更点】

- ・「京都観光行動基準（京都観光モラル）」、「新しい京都観光に向けた共同宣言」についての記述を追加しました。

<別添：参考資料>

- ・「京都観光行動基準（京都観光モラル）リーフレット《観光客編》」
- ・「京都観光行動基準（京都観光モラル）リーフレット《事業者編》」
- ・「私たちの暮らしと京都観光 リーフレット」

● 姉妹都市・キーウ（キエフ）市への支援について

本年2月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、姉妹都市として50年にわたり様々な交流を積み重ねてきたキーウ（キエフ）市は、極めて厳しい状況にあります。

京都市においては、一刻も早い平和的解決を願う数多くの市民や団体の皆様から、寄付金や献花が寄せられています。また、ウクライナから避難された方々を温かく受け入れ、支援を行うため、幅広い企業、団体等が力を合わせ、市民ぐるみで支援を行うネットワーク組織が立ち上がりました。住居や物資の提供、受入れのための寄付金、通訳ボランティアなど、市民ぐるみによる様々な支援の輪が広がっています。

他者を思いやる心。これは、私たちが大切にしてきた市民憲章の理念そのものです。国際情勢が厳しい時こそ、市民間の交流、都市間の交流を大切にすることが、世界平和にもつながります。私たち一人ひとりに出来ることは何か考え、市民ぐるみで支援の輪を一層広げていきましょう。今回の事態が速やかに終息し、キーウ（キエフ）市・ウクライナに、一刻も早く平和が訪れることを祈念します。

<京都市民・団体等の皆様からの支援>

○市役所等でキーウ（キエフ）市への寄付金箱設置【令和4年3月2日～4月30日（予定）】

寄付額：49,841,753円（令和4年4月4日時点）

○献花台の設置【令和4年3月2日～】

○「東山花灯路」会場内でキーウ（キエフ）市への寄付金箱設置【令和3年3月4日～3月13日】

寄付額：1,599,649円

○「東山花灯路」ウクライナ国旗色をイメージした大型行灯の設置【令和3年3月4日～3月13日】

○二条城のウクライナ国旗色のライトアップ【令和4年3月4日～4月17日】

○「キッズゲルニカ※」の京都市役所の展示【令和4年3月11日～3月18日】

※2017年にウクライナに住む子どもたちが東日本大震災の復興支援で平和を願って描いた絵画

○「ウクライナ・キーウ（キエフ）京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」の発足【令和4年3月18日～】

- ・避難された方へのワンストップ窓口の設置
- ・住居や物資・サービス等の提供のお申し出の受付、集約、マッチング
- ・「ウクライナ・キーウ（キエフ）京都市民ぐるみ受入支援寄付金」の受付
- ・ウクライナ語・ロシア語・ポーランド語の通訳翻訳ボランティアの募集